

日時： 平成29年7月25日（火）13:00～15:00

場所： 富士通デジタル・トランスフォーメーションセンター 会議室

議題

< 審議事項 >

- （1）気象ビジネス推進コンソーシアム ロゴ使用規程（案）
- （2）人材育成WG、新規気象ビジネス創出WGメンバーの変更
- （3）今年度のWXBC総会、気象ビジネスフォーラムの開催日、会場について

< 報告事項 >

- （1）6/21（水）第2回、7/19（水）第3回人材育成WG開催報告
 - ・第2回WXBCセミナー（7/26（水））の企画書
 - ・今後の活動内容
- （2）7/3（月）第2回新規気象ビジネス創出WG開催報告
 - ・今後の活動内容
- （3）広報関係
- （4）今後のスケジュールについて
- （5）その他

- ロゴ使用規程案は別紙 1 のとおり。

< 主な規定事項 >

- 1 定義
- 2 権利の帰属
- 3 会員の使用条件
- 4 会員以外の使用条件
- 5 W X B C の免責とロゴ使用者の責任
- 6 本規程の変更

審議事項（２）人材育成WG、新規気象ビジネス創出WG メンバーの変更

●人材育成WG

（敬称略）

座長：AITC 田原 春美

副座長：（一財）日本気象予報士会 岩田 修

所属		備考
1	AITC	運営委員
2	岐阜大学大学院	
3	一般社団法人全国清涼飲料工業会	
4	日通学園流通経済大学	新規
5	一般財団法人日本気象協会	運営委員
6	一般社団法人日本気象予報士会	
7	（国研）農業・食品産業技術総合研究機構	運営委員 新規
8	株式会社ハレックス	運営委員
9	株式会社日立製作所	運営委員
10	富士通株式会社	運営委員
11	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社	新規
	株式会社IHI	
	日本IBM株式会社	

青文字：新規参加希望
グレーのセル：脱退希望

●新規気象ビジネス創出WG（敬称略）座長：三菱総合研究所 村上 文洋、副座長：富士通（株）菅波 潤

所属		備考	所属		備考
1	株式会社IHI		18	日通学園流通経済大学	新規
2	株式会社エムティーアイ		19	日本IBM株式会社	
3	M-SAKUネットワークス		20	日本気象株式会社	
4	NTT空間情報株式会社		21	日本電信電話株式会社	
5	株式会社NTTデータ経営研究所		22	株式会社パスコ	運営委員
6	応用地質株式会社		23	株式会社ハレックス	運営委員
7	大塚製薬株式会社	運営委員	24	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社	新規
8	経営パワー株式会社		25	株式会社日立製作所	運営委員
9	株式会社構造計画研究所		26	富士通株式会社	運営委員
10	国際航業株式会社		27	株式会社フランクリンジャパン	
11	佐川急便株式会社		28	株式会社ポッケ	
12	シャープ株式会社		29	株式会社 三菱総合研究所	運営委員
13	新日鉄住金ソリューションズ株式会社		30	株式会社ミライト・テクノロジーズ	
14	株式会社スポーツウェザー		31	明星電気株式会社	
15	一般社団法人全国清涼飲料工業会		32	株式会社ライフビジネスウェザー	新規
16	TISソリューションリンク株式会社		33	リアルワールドゲームス株式会社	
17	株式会社東芝	運営委員			

審議事項（３）今年度のWXBC総会、気象ビジネスフォーラム 開催日、会場について

第1回に引き続き、今年度も以下の日時・場所にて第2回気象ビジネスフォーラムを開催し、WXBCの総会も併せて開催することにより、WXBCの今年度の活動の成果を効果的に示すこととしたい。
詳細について今後検討を深める。

日時・場所

日時：平成30年2月13日（火）午前：総会、 午後：フォーラム

場所：一橋大学 一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋2-1-2） < 約500人収容 >

内容（イメージ）

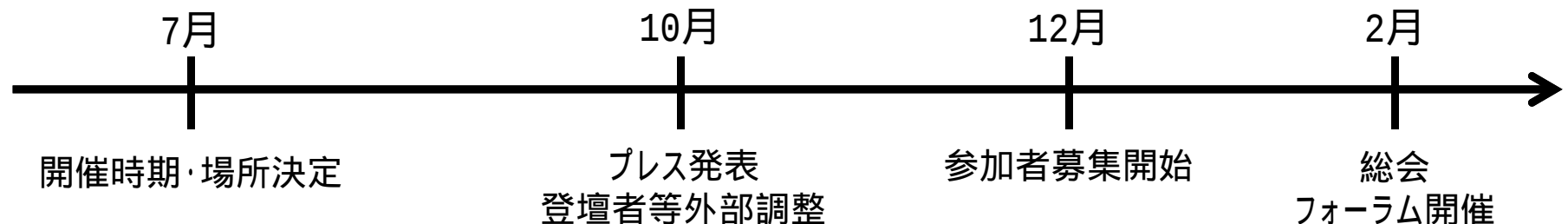
開催にあたっては、以下の内容（P）を中心に、WXBCの活動の活性化とプロモーションを図る。

WXBCプロジェクトに係る表彰・講演

気象ビジネスに係るシンポジウム

気象ビジネス創出に向けた企業間マッチング

今後のスケジュール（イメージ）



報告事項（１） 6/21（水）第2回、7/19（水）第3回 人材育成WG開催報告

- 第2回WXBCセミナーの企画案を確定（第2回）。企画書は別紙 2 参照。
- 3つの検討課題について、2つにグループに分かれて討論（第2回及び第3回）

検討課題

気象データを分析し、ビジネス提案ができる人材の育成計画
業種業態、地域特性に合わせた人材育成 & 出張講座の実施計画
（業種業態に合わせた人材育成については「新規気象ビジネス創出WG」に連携申し入れ）
テクノロジー（IoT、AI）研修計画

グループ討議

・第1グループ： + の計画立案を担当

メンバー：日本気象予報士会
岐阜大学大学院
日本気象協会
農研機構
ハレックス
全国清涼飲料工業会
ポッカサッポロフード&ビバレッジ
気象庁（事務局）

・第2グループ： の計画立案を担当

メンバー：AITC
日立製作所
富士通
気象庁（事務局）

- 第四回人材育成WG：8月に開催予定。 + の人材育成計画立案と の実施準備の具体化

報告事項（ 2 ） 6/21（水）第2回、7/19（水）第3回 人材育成WG開催報告

【第1グループの検討状況】

< 検討課題 >

気象データを分析し、ビジネス提案ができる人材の育成計画
業種業態、地域特性に合わせた人材育成 & 出張講座の実施計画

< 検討内容 >

について

【主な意見】

- 気象知識+コンサル能力を身につける人材は、気象予報士だけでなく、企業で気象データの活用に関心を持っている人も対象とすることが必要ではないか
- 生命保険のライフプランナーのように、レベルを設けて育成を行うイメージか。気象知識+コンサル能力、さらに分野別にも広げて、その能力をオーソライズできるとよい。今年度は基礎を固める段階か
- 漢字検定に近い認定を行い、人材の裾野を広げていくのはどうか
- 気象庁HPは見たいページにたどり着くのが難しいところもあるため、WXBCのHPで気象データ活用の興味を引くようなページを作るのが、人材育成につながるのではないか

について

【主な意見】

- 企業では気象データの利用そのものにハードルがあるため、地域に根ざした利活用事例の紹介が効果的ではないか
- 出張講座の各地でのテーマは、札幌では農業、福岡では漁業等を今後検討（事務局(気象庁)でも検討）
- 今年度の実出張講座は、管区気象台等の情報利用推進官の協力も得て、札幌、仙台、東京、大阪、福岡、沖縄管内で各1回程度。実施時期は早くても10月から。どこか1か所で開催して、その反応を見て他の箇所での内容を検討か
- 来年度以降、それぞれの地域で、1年間複数回継続して出張講座を開催するのが効果的ではないか
- 出張講座の終了後、会場で机に座って参加者が個別に説明者と相談できる時間を設けると、その聞き取り内容から地域のビジネスの創出およびビジネスの喪失を防ぐことにつなげることができ、効果的ではないか
- 地方でも、企業で気象データを活用する際の課題解決のためのアイデアソン・ハッカソンを行うのが効果的ではないか

報告事項(2) 6/21(水)第2回、7/19(水)第3回 人材育成WG開催報告

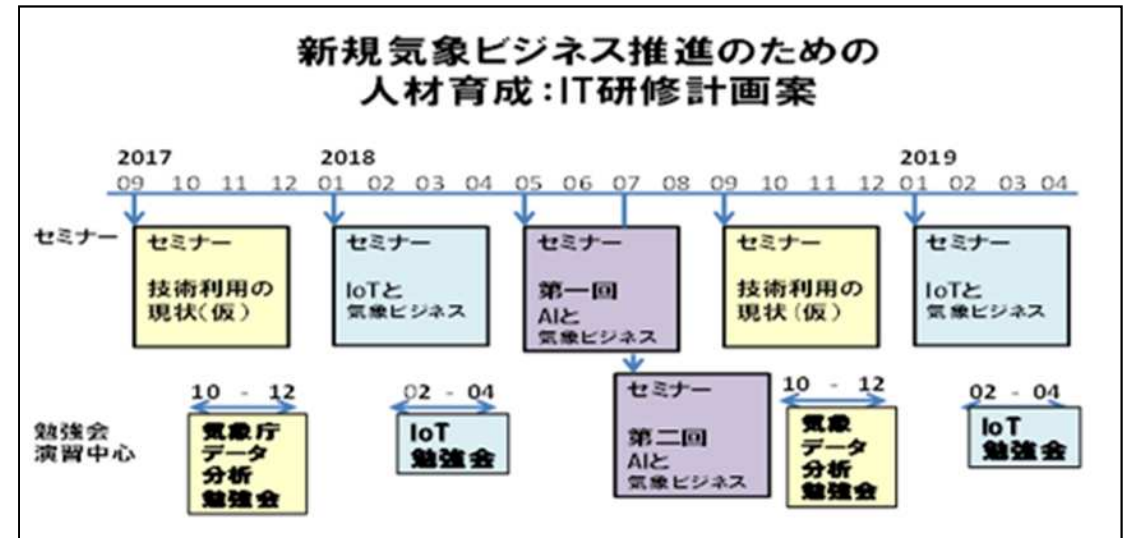
【第2グループの検討状況】

< 検討課題 >

テクノロジー (IoT、AI) 研修計画

< 検討内容 >

- 対象者： 気象ビジネスにITを活用したい事業者
- 対象技術分野： データ分析、IoT、AI
- 実施方法： セミナー（概説レベル1回） → 勉強会（演習中心3回）を1サイクルとして実施
- セミナーの開催目的：
 - ・ 気象ビジネスにおけるIT利用の現状を知り、IT利用への取り組みを動機付ける
 - ・ 各技術分野の勉強会への参加を動機付けるとともに、マネジメント層の理解を得て、参加し易い環境を醸成する
- 勉強会の開催目的：
 - ・ 気象ビジネスにITを利用したい人材、利用できる人材を育成する
 - 各技術に集中して触って、試してみることで、使えそう/使ってみたいという意欲を持ってもらう
- 特記事項：
 - ・ セミナー会場に、3月7日のフォーラムに併設の展示会に出展された気象ビジネス関連製品の展示を企画する
 - ・ AIは当面セミナーのみとし、勉強会についてはいつ頃から何をどうできるかを継続して検討する
 - ・ データ分析とIoTについては、2017年度、2018年度でセミナー + 勉強会のサイクルを2回実施の予定
 - ・ 勉強会のメンバーは、「気象データをよく知っておられる気象業務関係者」と「ITは判っているが気象データを知らないIT関係者」の双方で構成することで、知見の補完と共有を図る
 - ・ 勉強会を終了後、引き続きスキルの習得を望む人には支援を継続する



報告事項(2) 6/21(水)第2回、7/19(水)第3回 人材育成WG開催報告

【第2グループの検討状況<企画案>】

1. データ分析

1) セミナー(技術編):

「技術利用の現状ご紹介(仮称)」(概説レベル)

対象者: 会員、非会員

内容案: ・気象ビジネスの事例紹介(国内外)
・気象データの活用事例ご紹介
・気象観測よもやま話/裏話
・データ分析勉強会のご紹介

開催時期: 2017年9月を予定

募集人数: 100名~120名

回数: 1回(参加申し込み次第で再演を検討)

2) 勉強会(演習中心): 「気象データ分析勉強会(仮称)」

参加資格: 会員(非会員の場合は入会を前提に参加可能)

内容と達成目標:

・ツール紹介&環境設定(R、Microsoft Azure Machine Learning、Excel等)
ツールを知り、使えるかな/使ってみたいという感触を得る
・上記のツールを使って気象データを収集・分析してみる演習

データのマッチング試行錯誤(手習い)を通して気象データの分析手法を体験する

開催時期、回数等: 2017年10月~2017年12月(月1回4時間程度。3回を想定)

募集人数: 30~50名程度(継続参加が前提)

検討課題: 演習環境(会場、サーバー/演習用PC等)、演習対象の気象データ、講師+アシスタント(数名)等の確保等

2. IoT

1) セミナー(技術編):

「IoTと気象ビジネス(仮称)」(概説レベル)

対象者: 会員、非会員

内容案: ・IoTとは
・各種センサーのご紹介
・IoTを利用した気象ビジネスの事例ご紹介

開催時期: 2018年1月を目途に

回数: 1回(参加申し込み次第で再演を検討)

2) 勉強会(演習中心): 「気象ビジネスのためのIoT勉強会(仮称)」

対象者: 会員(非会員の場合は入会を前提に参加可能)

内容と達成目標:

・IoTとは
・各種センサーにTouch&Tryf どのようなセンサーが気象ビジネスに利用できそうかを知る
・テーマを決め試作(グループ活動)

IoTを使った新規気象ビジネスを構想し、システムを構築するための手がかりを得る

開催時期、回数等: 2018年2月~2018年4月(月1回4時間程度。3回を想定)

募集人数: 30名程度(継続参加が前提)

検討課題: 演習環境(会場、サーバー/演習用PC、各種センサー等)、演習対象の気象データ、講師+アシスタントの確保等

3. AI

1) セミナー(技術編): 「AIと気象ビジネス(仮称)」(概説レベル)

対象者: 会員、非会員

開催時期: 初回) 2018年5月を目途に。二回目) 2018年7月を目途に。

内容案: ・AI概説
・AIを活用すると気象ビジネスはどう変わるのか?
・AI活用事例紹介(海外事例?)(内容については、要検討)

2) 勉強会(演習中心):

「気象ビジネスのための機械学習勉強会(仮称)」

開催可能な時期と内容を見定めながら、継続検討

● 新規気象ビジネス創出WGの活動方針について

○ WGの活動の柱

- ✓ （人材育成WGと連携して）業種業態に応じて気象データを活用できる人材の検討
- ✓ （利益を生み出す事に主眼を置いた）ビジネスにおける気象データの活用事例集の作成（随時改訂）
- ✓ （活用事例集から）新規気象ビジネスのモデルの創出

【主な意見】

- ・ 気象予報士をどう生かしていくか、ビジネスにどう繋げていくかという議論がある。業種業態で質・要望が違うので深掘りしてはどうか
- ・ ITコンサルティングに似たところがあり、発注者側にもある程度の気象の知識をもった上で業務と繋がるイメージ
- ・ 今までと違い、これからは気象をビジネスに繋げ、ビジネスを掘り起こす人材が必要
- ・ 「自分のビジネスのどんなところが構造化されているかを理解できている人」に出会えるとコンサルは進みやすい
- ・ 少し気象ビジネスが起きているとわかると、専門家が集まる。一般の人のところまでそれが広がる必要がある
- ・ 活用事例集については、海外の適用できるもの、できないものも集め、積み重ねていくのもよいのではないか
- ・ 気象に係る法制度の議論は、ビジネスモデル、ビジネスの建て付けができてからではないか

○ アイディアソンの実施

【主な意見】

- ・ アイデアソンはビジネス創出というよりチーム・ビルディングが重要な成果、という前提でやった方がよい。こういう取組をしている、というPRになればいい。アイデアソンの目的を明確化する必要がある
- ・ 気象予報士にメンター・ファシリテーターとして参加してもらって、気象データをビジネスで利用するための支援する役割があるということを知ってもらうのも有効ではないか

● 第3回WG(7/27(木))までに、事務局（気象庁）が持っている、ビジネスにおける気象情報の活用事例を整理する

● 今後の予定

第4回新規気象ビジネス創出WG(9/4(月))においてWGメンバーで少人数に分かれてワークショップ的なものを行ってアイデア出しを行うこと等について、第3回WG(7/27(木))にて議論。

● ニュースレター発行

・6/23（木）ニュースレターVol. 4

- 1．第3回運営委員会が6月14日（水）に開催されました。
- 2．シンポジウム『気象衛星ひまわり～宇宙の最先端技術が切り拓く未来～』を7月22日（土）に開催します。
- 3．7月4日（火）から防災気象情報の改善、新たな情報提供が開始されます。
- 4．第2回WXBCセミナーの開催日が決定しました。

・7/3（月）ニュースレターVol. 5

- 1．第2回WXBCセミナーの企画が固まりました。

・7/6（木）ニュースレターVol. 6

- 1．アジアオープンデータハッカソンの開催について
- 2．第2回WXBCセミナーの一般募集開始について

・8月上旬 ニュースレターVol. 7（予定）

- 1．第3回運営委員会が7月25日（火）に開催されました。
- 2．第2回WXBCセミナーが開催されました。

- 運営委員会の今後の予定

第5回：9月中旬（日程調整中）

8月23日（水）13：00～15：00 の日程を確保いただいておりましたが、これを9月中旬で再セット

9月以降は、2ヶ月に一度程度の開催を想定。

気象ビジネス推進コンソーシアムロゴ使用規程（案）

気象ビジネス推進コンソーシアムロゴ使用規程（以下「本規程」という。）を次のように定める。

1 定義

気象ビジネス推進コンソーシアム(以下「WXBC」という。)が提供する WXBC ロゴとは、以下のロゴを個別にまたは総称していう。



2 権利の帰属

WXBC ロゴに関する権利（著作権及び版權並びに受注者が印刷物製造過程で作成した製版データの所有権）は、事務局（気象庁）に帰属する。

3 会員の使用条件

会員は、以下の条件に従い、WXBC ロゴを使用できるものとする。

- (1) ロゴのサイズは幅 661 ピクセル × 高さ 661 ピクセルを基本とし、拡大・縮小して使用する場合、縦横比を固定して拡大・縮小のうえ使用するものとする。また、図形と文字については、一体で使用するものとする。
- (2) WXBC 会員であることを示すことを目的として WXBC ロゴを使用する場合、WXBC の個別の許諾なく使用できるものとする。
- (3) イベント等について WXBC の後援・協賛・協力等を得ている場合、それを示す態様で WXBC ロゴを使用できるものとする。なお、イベントの後援・協賛・協力等については、WXBC 細則第 15 条による。
- (4) イベント等について WXBC の後援・協賛・協力等を得ていないにもかかわらず、そのような誤解を招くおそれのある態様で WXBC ロゴを使用してはならない。

(5) WXBC ロゴについては、営利目的に使用してはならない。

4 会員以外の使用条件

WXBC の後援・協賛・協力等を得ているイベント等について WXBC ロゴの使用を希望する場合、以下の事項を明記して WXBC (事務局) に使用許諾を申請し、許諾を得たうえで 3 項 (1) 及び (5) の条件に従って使用しなければならない。なお、イベントの後援・協賛・協力等については、WXBC 細則第 15 条による。

使用者名 (個人または法人等)、使用者の連絡先、使用目的、使用態様 (たとえば、掲載する媒体の名称、掲載する媒体の概要、掲載時期等)

5 WXBC の免責とロゴ使用者の責任

- (1) WXBC は、ロゴ使用者が本規程に違反して WXBC ロゴを使用していると認めた場合、当該ロゴ使用者に対して、WXBC ロゴの使用停止その他の WXBC が必要かつ適切と判断する措置を講じることができるものとする。
ただし、WXBC は、かかる違反を防止または是正する義務を負わない。
- (2) WXBC は、WXBC ロゴを使用したことに起因してロゴ使用者及び第三者に生じたあらゆる損害について、一切の責任を負わない。
- (3) ロゴ使用者は、WXBC ロゴを使用したことに起因して (WXBC がかかる使用を原因とするクレームを第三者から受けた場合を含む) WXBC が直接的または間接的に何らかの損害 (弁護士費用の負担を含む) を被った場合、WXBC の請求に従って、直ちにこれを補償しなければならない。

6 本規程の変更

WXBC は、運営委員会が必要と判断する場合、あらかじめ通知することなく、いつでも本規程を変更することができるものとする。

なお、変更後の本規程は施行日から効力を生じるものとし、ロゴ使用者が変更後も WXBC ロゴの使用を継続することにより、変更後の本規程に同意したものとみなす。

附則 本規程は、平成 2 9 年 7 月 X X 日より施行する。

2 . 第2回WXBCセミナー企画書

1 . 概要・目標

2日先までの短期予報、7日先までの週間予報、2週間程度先までの異常天候早期警戒情報等を利用したビジネス例を紹介するとともに、それぞれの情報の内容（それらの基盤となる数値予報を含む）・入手方法について概説する、入門的な講義及び気象庁内の見学会を開催する。参加者が気象ビジネスの事例を実感し、それに必要な気象データ（予報等の気象情報を含む。以下同じ）の内容及び入手方法についての基礎的な知識を身に付けることを目標とする。

具体的には、観測や予報等の気象データについて概括的に説明した第1回の内容のうち、今回は、予報についてより噛み砕いて紹介する。

非会員への勧誘や気象ビジネスの普及にも資する。

2 . 日時

平成29年7月26日（水）11時20分～12時00分（「気象データの全体像」）

気象データに馴染みのない方等を対象に、気象データの全体像及びカテゴリーについて解説する。

11時30分～12時00分（現業室見学）

13時00分～15時25分（セミナー本体）

15時30分～16時00分（現業室見学）

3 . 場所

- ・講堂（気象庁2階。「気象データの全体像」及びセミナー本体）
- ・予報・地震火山現業室・気象科学館

4 . 対象者

- ・WXBC会員100名・非会員20名 計120名＜WXBC会員を優先＞
 - 募集の結果、会員86名・非会員29名：計115名の参加。
- ・「気象データの全体像」及びセミナー本体は事前申込者（先着順）とする。
- ・予報・地震火山現業室見学は事前申込者40名（会員のみ）とする。参加者多数の場合は、事前申込者先着順とし、かつ、1社1名とする。
- ・気象科学館はどなたでも見学可。

第2回WXBCセミナー企画書（つづき）

5．内容 （0）～（3）の講義には5分程度質疑を行う時間を設ける。

（0）気象データの全体像（第1回セミナーでの内容と同一）

気象データに馴染みのない方等を対象に、気象データにはどのようなものがあるのかを理解いただくため、その全体像及びカテゴリー（分野（気象／地震／火山／海洋）、観測／予測、メッシュ／ポイント等）について解説する。本講義を受けることにより、セミナー本体の理解を促すことを目的とする。

（1）気象ビジネスの具体例について紹介 ～気象と物流～

気象ビジネスの具体例を通じて気象データの利活用場面を実感していただけるよう、気象予測を物流の管理に利用している取組、利用するにあたっての課題・知見等について（一財）日本気象協会に講演していただく。

（2）短期予報・週間予報・異常天候早期警戒情報について

短期予報・週間予報（週間アンサンブル等数値予報の基礎を含む）及び異常天候早期警戒情報の概要やその利用方法（誰を対象にしたこういった使い方を想定しているデータか、技術概要、精度、使う上での注意点等）について説明する。併せて、これらの基盤である数値予報についても概説する。

（3）気象データの入手方法について

気象データ提供に関する気象業務法の規定や、気象業務支援センターからの気象データ入手方法（ルート、経費）等について、具体例を挙げつつ説明する。また、民間気象事業者からもこれらのデータの入手が可能であることも併せて説明する。

（4）気象庁見学（午前・午後の2回開催：会員のみ）

気象データをより身近に感じていただくとともに、気象データの作成される過程について理解いただけるよう、気象庁の予報・地震火山現業室の見学を行う。

1班20名の2班に分け、順次予報・地震火山現業室を見学する。1箇所あたりの説明時間は10分とし、「各種気象データがどのように作られているか、どのようなルートで発表されているか」等について説明を行う。質疑は3分程度、移動は2分程度を想定。

観測部現業室については、（5/30の第1回セミナー開催時の）資料を配布する。

気象科学館には、セミナー本体後の見学時間には説明員を数名配置する。

6．その他

（1）会員へのご案内では、第2回セミナーの意図を明確にお伝えするため、想定している対象者、（第1回と比較した）範囲・レベル等の違いを明示してお知らせするとともに、第1回の「気象データの全体像」の資料の持参をお勧めする。

（2）セミナーの開催について、気象庁HPへの掲載及び記者クラブへのお知らせを行い、WXBCの活動を広く周知する。

（3）気象庁の利活用事例（パンフレット）を受付に置き、希望者に自由にお取りいただく。

（4）気象科学館の開館時間（10時～16時）を17時まで延長し、セミナー後の見学も可能にする。

気象ビジネス推進コンソーシアム 第3回運営委員会議事概要

- ・日時 平成29年6月14日(水) 13:00～15:00
- ・場所 気象庁5階 総務部会議室
- ・出席者 委員18名中、15名出席。(3名欠席)

・議事概要

1 気象ビジネス推進コンソーシアム 細則について

【主な意見】

- 法人・有識者会員入会用申込様式について、代表者の E-mail を記入してもらうのがよい。

【決定事項】

- 代表者の E-mail の欄を設けることとする。
- 第2回運営委員会での指摘を踏まえて修正を行なうこととし、承認された。細則は HP で掲載することとする。

2 運営委員から広報担当の選出について

【決定事項】

- ヤフー(株)田中委員を広報担当とする。

3 人材育成WG、新規気象ビジネス創出WGメンバーの追加

【決定事項】

- 人材育成WG:(一財)日本気象協会・(株)日立製作所のメンバー追加を承認
- 新規気象ビジネス創出WG
: 日本電信電話(株)・(株)日立製作所のメンバー追加を承認

4 6/2(金)第1回人材育成WG開催報告

【報告概要】

- ・第1回目は人材育成WGの活動の大枠、骨子を決め、マインドシェアを目的とした。
- ・活動の最終目標は、気象ビジネスのマーケットを拡大することとした。
- ・活動方針、対象者、活動方法をWGの屋台骨とする。
- ・出張講座で各地域に応じたセミナーを行っていく。
- ・セミナーの入門編としては、気象データの説明を中心とし、ビジネス編については、当面入門編に気象データ利活用の事例紹介を+αしていく。
- ・セミナーでは、気象データ、IoT・AIの技術者を育成していく。

【主な意見】

- セミナーを受けた場合の修了証のようなものはもらえるのか。
→ 今後検討していく。
- 続編は同じ人が受けるイメージか、違う人が受けるイメージか。NHK のテレビ講座のように単独で受けても役に立つが、全体を通して受けると体系だった知識がつくのがよいのではないか。
→ 現時点ではフリーで考えているが、方法論なので、今後検討していく。広く多くがよいのか、ターゲットを絞るのかを今後検討していく。プロジェクト化して特定の人材について即効性を持たせて育てるのかも考える必要がある。
- セミナーのアンケートに実習のような希望があったが、気象会社のツール等を使うようなセミナーを会員に限って行うとよいのではないか。
- 人材育成のポジションを全体で考えると新規ビジネスの下支えと考えている。実証実験等を開始するまでに必要な人材を送り出せるような構想にしたい。
- 出前講座において、地域で出前を作れる・こちらから行うことで掘り起こしができるようなアイデアが欲しい。
- アンケートの “ その他 ” はどんな業種だったのか。
→ 建設や製造が多かったが、バラバラであった。
- セミナーの参加者に情報通信系が多いため、そこを中心にしたセミナーを検討したい。
- アンケートの分類は日本標準産業分類などの一般的な分類を用いたほうがよい。
新規気象ビジネス創出WGの検討内容にも関連するので、アンケートの業種は細かく見せてほしい。
- セミナーを映像で撮影するというのもありうるのではないか。反面、映像で配信するとセミナーの現場に来なくなるリスクもある。
- 映像配信しつつ、セミナーではワークショップ的なことを行うなど、色々とありうるのではないか。

5 6/7（水）第1回新規気象ビジネス創出WG開催報告

【主な報告】

- ・ 参加者が多いことから、1、2 回目は議論の発散ありきで会議を行い、3 回目あたりで今年度や2～3年後のゴールを設定する計画。
- ・ 気象ビジネス市場の拡大に皆で注力する。その上で、協調領域と競争領域を分けて行う姿を想定している。

- ・ 気象データはリスクヘッジとして使うケースが多かったが、気象データを収益増の観点で考えていくと新しいアイデアが出てくると思う。
- ・ WG には気象データの活用を考えてなかった・縁がなかった会社の参画があり、いろんなアイデアを出し合いたい。
- ・ ある程度テーマが決まったらサブワーキングを作っていく方向にもっていきたい。
- ・ 気象予報士を気象データアナリストのような人材にいか育成するかが重要。
- ・ 現在は情報の取得者が使うだけのいわば一次産業的な利用しかされていない情報の利用について、二次産業・三次産業を生み出していききたい。
- ・ WG 参加理由や期待等を整理するために、WG 内にアンケートを行い、まとめて運営委員を報告したい。場合によっては会員にも共有したい。

6 広報関係

【主な報告事項】

- 気象庁主催の講習会への WXBC 参加者は、5 月 27 日は 8 名、6 月 15 日は 21 名。

【主な意見】

- HP の準備の進捗はいかがか。
- 当面は気象庁サーバーでの運用を行い、外構築は秋以降を考えている。
- 会長・事務局で検討の上、気象庁 HP の改善・部外サーバーでの HP 構築を並行して検討していく。

7 気象衛星ひまわりの大容量データの提供の概要

【主な意見】

- 即時利用を必須としない、営利目的でのデータ取得をする場合はどうしたらよいのか。
- 気象業務支援センター経由で入手いただくことになる。
- 民間企業が研究開発目的でひまわりデータを利用する場合、どのようにすればよいのか。
- 研究開発者向けのデータサービスを行っている各機関に利用申請いただくことで、インターネットを通じてデータが利用できる。
- 気象ビジネスを行うための経費がいくらかかるのかイメージができない。ファクトとして気象ビジネスを行うためにどれだけの費用が必要か新規気象ビジネス創出 WG で試算してほしい。
- 気象庁と協力して、経費・環境などを検討していきたい、